

【学校教育目標】

自他を大切にするとともに、主体的に考え・動く子どもの育成

～つよく かしこく あたたく～



呼子っ子

唐津市立呼子小学校

学校便り No.11

令和2年 10月20日

文責：宮本 克一

コロナ禍でのバス旅行・修学旅行

新型コロナウイルス感染が世界中で広がり「三密の回避」「人との間隔の確保」など「新しい生活様式」で過ごすことが多くなりました。それに合わせて運動会をはじめとする様々な学校行事が中止・規模縮小を余儀なくされていて、保護者の皆様や子どもたちにたいへん不自由な思いをさせてしまっていることを残念に感じているところです。

そんな中、10月16日（金）に1～5年生のバス旅行、6年生の日帰り修学旅行をなんとか実施できました。これも日頃の子どもたちの健康管理に気を付けていただいた保護者のお陰だと感謝いたします。特に6年生の日帰りでの長崎修学旅行につきましては、保護者会の開催やアンケートの実施など多大なご理解とご協力があり、6年生児童全員が参加することができました。宿泊はできませんでしたが、6年生児童にとっては思い出に残る修学旅行となったことと思います。

今後も朝の検温やマスクの着用などコロナ感染予防の対策をお願いいたします。

学 年	行 先
1・2年生	メルヘン村（武雄市）
3年生	佐賀県立宇宙科学館（武雄市）
4年生	さが水ものがたり館・神野公園（佐賀市）
5年生	佐賀県立博物館・佐賀城本丸歴史館（佐賀市）
6年生	平和公園・グラバー園ほか（長崎市）



pixta.jp - 39860319



【唐津地区入選（硬筆）】
 1年 藤本 ゆあさん
 2年 福浦 こうたさん
 3年 佐々木 やまとさん
 4年 梅津 ともやさん
 5年 平田 紗羅さん
 6年 吉岡 莉子さん
 6年 牧山 琉伊斗さん
 6年 牧山 彩羽さん

【唐津地区特選（硬筆）】
 1年 前川 しょうすけさん
 4年 岩田 あやかさん

【唐津地区特選（毛筆）】
 3年 本城 えるかさん
 森 あきよしさん
 4年 松尾 優さん
 5年 辻村 凌晟さん
 森 琴音さん
 6年 辻村 莉音さん
 小形 侑衣那さん
 岩本 憲親さん
 三浦 輪奏さん
 【唐津地区入選（毛筆）】
 3年 辻村 うるあさん
 伊藤 みいなさん
 4年 中山 柚さん
 本城 雅斗さん
 平野 心温さん
 5年 伊藤 響花さん
 川崎 穂希さん
 6年 杉 江里菜さん

おめでとう！
よく頑張りました
◎七夕書き方会審査結果

スクールソーシャルワーカーだよりの紹介

唐津市青少年支援センターに在籍されているSSWの堀川先生のお便りを紹介します。子育ての参考になれば幸いです。



ほり
じい

スクールソーシャルワーカーだより

こと スクールソーシャルワーカー堀川

27

☆☆ 子どもを自分の理想に近づける子育ての巻 ☆☆

ある講演会で、「親」という漢字は、**木**の**立**ち姿を**見**まどの枝を伸ばし、どの枝を落とすか考える姿だという話がありました。子どもの変化を見逃さないよう、気を配って成長を見守る、という意味でした。

しかし、その立場には、子どもが自分らしく伸ばしている枝を、必要以上に自分の理想とする姿に仕立てようとするような気がするのですが、あなたはどのように感じますか？

☆

「子どもの頃、出来なかったことをさせまあげている」と、おっしゃる保護者さんがあります。大人たちは知らぬ間に、自分の理想を子どもに押しつけてまいます。子どものためと信じまおられるのですが、果たして、子どもと一心同体なんでしょうか？

☆☆

子どもは、身近なおとなやきょうだいをお手本にしながら、自分らしい言葉づかいやしぐさを身に着けてまいきます。保育園や小学校に入ると、家庭内にはなかった「お手本」に出会います。この、新しい「お手本」と過ごす時間は、家庭での時間よりも長くなります。子どもが幼いほど、保育士さん、好きな先生ほど影響力は大きく、親の言う事をきかない時、「先生から言ったださい」とお願いしませんでしたか？

しかし、自分のためだけにお世話をしまもらえる家庭での親の影響は、時間に関係なくもっと強いものです。それと子どもは無意識に、親から求められる理想に近づこう、親の関心を得ようと成長するのです。身近であるほど、おとなの影響を受けるのです。

☆☆☆

お尋ねします。「あなたの理想を、子どもに押しつけてまいませんか？」

子どもがあなたの背中をお手本に育つことと、あなたの理想と「育てること」には、大きな開きがあります。それは、あなたを超えて大きく育つ邪魔かも知れません。

子どもと立木は違います。誰かの所有物ではなく、未熟だけれど独立した人格を持っています。泣くことしか出来ない赤ちゃんは無意識のうちに、どうすれば泣かずに心地よく過ごせるか、その方法を身につけながら育ちます。「おとなの期待」に沿って育つ事がそれです。でも、その努力が限界に達して不登校になる子どももあるのです。あなたの気配りで、子どもの本音を察し、自分らしく育てまあげてください。



*次回は、「どうしまウソをつくか」ではなく「どうしたくまウソをつくか」